

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(イ)	ふるさとづくりの推進	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	①	地域イベント活性化事業	
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名			

1. 事業の目的						
○各地区のイベント開催団体が地域と連携、協力しながら地域の活性化に繋がるイベントを開催し、住民相互のふれあいを深めるとともに、地域のにぎわいを創出し活性化を図ることを目的とする。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○各地区のイベント開催団体が地域と連携、協力しながら地域の活性化に繋がるイベント経費について助成を行う。（補助率：1/2以内） ○新上五島町イベント等補助金交付要綱			○平成28年度実績：5団体、4,453,000円 ・ざあ～まによか夏上五島 ・ありかわ縁日 ・奈良尾夜市と花火大会 ・サマーフェスティバルinわかまつ ・どてらい市			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	4,453千円			4,400千円		53千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○各地区のイベント開催団体が地域と連携、協力しながら地域の活性化に繋がるイベント経費について助成を行うことにより、地域のにぎわいの創出が図られている。 ○来場者数：5イベントで10,900人 ○経済効果：5イベントで約14,800千円			○イベント開催団体が固定化されていることから、助成制度の趣旨や周知を図りながら、地域間が連携したイベント等を実施する必要がある。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○地域活性化と住民相互のふれあいを深めるため、広く各団体等（実行委員会等）に周知し、地域の主体的なイベント事業の実施を促す。						

担当課評価	B	○各地区のイベント開催団体が地域と連携、協力しながら地域の活性化に繋がるイベント経費について助成を行うことにより、地域のにぎわいの創出が図られており、今後も事業を継続すべきである。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(イ)	ふるさとづくりの推進	
	2	地域の特徴を活かした地域づくりの推進	
事業名	②	文化・芸術振興事業	
担当課名	生涯学習課	所属長名	宇戸佐一郎
関係課名	文化財課		

1. 事業の目的						
○町内の文化活動の推進を図るため、住民が企画・立案・実施できる機会を設け、『住民参加型』の文化活動の推進を図るとともに、生の芸術にふれることにより豊かな情操教育、並びに住民の生活に潤いを感じられるような文化事業の提供を行う。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○青少年劇場、子ども劇場（五つ星）、寄席（落語）、劇団四季こころの劇場公演、ギターと声楽のコンサートを開催し、演劇・古典芸能・音楽などすぐれた舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。また、町内の文化活動団体等へ活動費の補助を行い、その活動を支援した。			○6/24：青少年劇場「赤ガラスの大明神」（魚目小学校・北魚目小学校）311千円 ○7/25：子ども劇場「昔ばなしのさんさん劇場」260千円 ○11/6～7：新上五島町寄席、学校寄席（若松中学校）1,151千円 ○1/23：劇団四季「エルコスの祈り」（町内4～6年生）694千円 ○1/27～28：山口修&純子コンサート（今里小学校、小串公民館）450千円 ○文化協会補助 800千円 ○有川小学校コーラス部補助 163千円			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	3,829千円					3,829千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○子どもから、児童生徒・保護者、また広く町民一般にわたり「生の芸術」にふれる機会を提供することができた。また、町内の文化活動団体等への活動支援を行った。			○事業を継続・展開してゆくにあたって、広い世代にわたる求められるニーズの把握が重要である。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○事業内容の見直し検討を行いながら、継続・展開することで住民の文化的意識の向上が期待される。また、「しま」ということで、生の芸術にふれる機会が制約される中、さらなる事業の展開と提供が必要である。						

担当課評価	B	○島に住むということで、優れた舞台芸術を鑑賞する機会が少ないことを考えると、今後も芸術文化事業を継続することにより、社会教育行政の実践を支えてゆく。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(イ)	ふるさとづくりの推進	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	③	伝統芸能アーカイブ事業【新規】	
担当課名	文化財課	所属長名	湯川直基
関係課名			

1. 事業の目的						
○地域の伝統芸能が、継承者の高齢化や人口減少により存続が危ぶまれている。そこで伝統芸能等の全体を映像として残していくとともに、継承の仕方として、準備・練習・本番の風景までを記録として残していくものである。また、これにより万一その伝統芸能の継承が途切れた場合でも復活を可能にする。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○伝統芸能そのものだけでなく、継承の仕方（準備・練習・本番等）のすべてを映像として記録する。			○国重要無形民俗文化財指定記念「第2回新上五島神楽大祭」を9月に開催し、その中で披露された『五島神楽』を映像記録として保存した。			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	400千円	200千円				200千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○地元の上五島神楽、有川神楽をはじめ、岐宿・福江・富江・玉之浦の各神楽の記録を残せたことは今後に向けて大きな価値がある。また、新上五島の伝統文化の伝承とその在りかたを考えるシンポジウムも合わせて開催した。			○五島神楽のほかにも、鯛ノ浦の薙刀踊り、青方念仏踊り、江ノ浜念仏踊り、若松の亥の子など各地域の保存会で継承されているものがある。継承の一連の流れを記録することは時間を要するが丁寧に取り組む必要がある。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○今後、存続が厳しいと思われる伝統芸能保存団体を優先して事業を実施していく。						

担当課評価	B	○神楽のみならず、現在保存会によって行われている伝統文化等についても積極的な記録保存に取り組む必要がある。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(イ)	ふるさとづくりの推進	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	④	文化財保存整備事業	
担当課名	文化財課	所属長名	湯川直基
関係課名			

1. 事業の目的						
○文化財を守り、伝え、活かすという基本方針のもと、貴重な町民の財産である文化財の保存・伝承・及び活用の充実を図る。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○町内の文化財の保存・修繕や文化財案内板の修繕等の環境整備、及び文化財を活用した学習機会の提供や小・中学校における町の歴史・文化を伝える出前講座を行う。また、指定文化財保存団体や郷土芸能団体等に対して活動費の助成を行う。			○修繕等については定期的に巡回を行うとともに、大雨や台風時等にも被害の把握に努めた。 ○指定文化財保存団体や郷土芸能団体等に対して活動費の助成を行った。 ○建築家鉄川與助に係る図面等の保存修理を行った。			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	2,273千円					2,273千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○修繕等については定期的に巡回を行い、破損等の早期発見に努め重篤化を防いだ。 ○指定文化財保存団体や郷土芸能団体等に対して活動費の助成を行い、町の伝統文化の振興を図った。 ○建築家鉄川與助に係る図面等の保存修理を行った。			○文化財案内板について、観光案内板と重複したり破損しているところがある。 ○建造物等にあっては、多大な所有者負担が伴う場合もあり直ちに取り組むことが難しい。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○関係課である観光商工課と協議をしながら整備を行っていく。						

担当課評価	B	○教会堂等の修繕については地元小教区及び長崎大司教区と連携をとり実施している。また、学校における出前講座や歴史教室はできる限り学校側の要望に沿って実施している。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(イ)	ふるさとづくりの推進	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	⑤	島の宝を活用した魅力情報発信強化事業（歴史・文化）	
担当課名	文化財課	所属長名	湯川直基
関係課名			

1. 事業の目的						
○島外との交流を促進するために島の歴史文化を体験できる体制の整備充実を図り、島の魅力を高め観光客等の減少を防ぐとともに交流人口の維持拡大を目指す。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○鯨賓館ミュージアムのインフォメーション機能の充実によって、魅力ある歴史文化を伝える。伝統文化の「神楽」を用いた郷土芸能大会を開催し、さらなる情報発信及び交流人口の拡大を図る。 ①町内の歴史文化を伝える映像ソフトの作製 ②世界文化遺産関係の企画展示 ③郷土芸能大会の開催			①文化的景観を主体とした町内の歴史文化を伝える映像ソフトの作製（6種類） ②世界文化遺産候補「頭ヶ島の集落」等の増設展示（壁面什器、ローケース×3基） ③郷土芸能大会の開催（佐世保市・五島市での公演参加、町内での神楽大祭開催、パンフレット作成）			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	8,988千円					8,988千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○世界遺産登録を控えた受入体制整備の足掛かりが実現できたことで、有川港多目的ターミナル内に位置する鯨賓館ミュージアムの情報発信及び機能充実を図ることができた。また、多言語表示などによる映像ソフトの充実によって、より分かりやすく魅力的な情報発信につながった。			○世界遺産登録を目前に控え、海の玄関口に位置する鯨賓館ミュージアムの役割は大きなものがある。今後は、調査・研究のほか、資料の収集・保管、公開・活用など、地域から期待される役割を担えるようさらなる充実を図る。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○鯨賓館ミュージアムの計画的な改修を行い、地域の「知の拠点」としてのミュージアムづくりを目指すしていく。						

担当課評価	B	○年々着実な進捗を見ているが、世界遺産登録以降もより大きな成果を達成できるよう、さらに取組みを進めて行く必要がある。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。

新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

実施年度	平成28年度		
基本目標	3	伝統文化を重んじ、安心して豊かな生活を送れるまちを創る	
施策名	(イ)	ふるさとづくりの推進	
	2	地域の特色を活かした地域づくりの推進	
事業名	⑥	文化的景観保護推進事業	
担当課名	文化財課	所属長名	湯川直基
関係課名			

1. 事業の目的						
○国の重要文化的景観に選定されている「北魚目地域」と「崎浦地域」の文化的景観という貴重な文化財を守り後世へ伝えるとともに地域活性化を図る。						
2. 事業の概要			3. 実施内容（取組状況）			
○文化的景観整備活用委員会を中心に、文化的景観整備活用計画に沿って北魚目地域及び崎浦地域の重要構成要素を含む集落全体の保存・継承・活用を図る。			○文化的景観整備活用委員会の開催 2回 ○地域おこし協力隊の配置 2人 ○文化的景観インフォメーションセンター改修工事実施設計			
	実績額	国費	県費	起債	その他	一般財源
事業費	3,566千円					3,566千円
4. 事業における成果			5. 事業における課題			
○文化的景観区域内で実施される事業について、文化的景観整備活用委員会に意見、助言をいただきながら景観に配慮した事業の推進を行うことができた。また、地域おこし協力隊が地域に入ることによって文化的景観の価値の保存や活用していく意識付けがなされつつある。			○文化的景観整備活用計画に記載されている行為届出及び景観形成基準に基づき事業の推進を行っているが、事業が多岐にわたっているため詳細な基準設定が必要になっている。			
6. 課題解決に向けての今後の取り組みについて						
○文化的景観整備活用委員会で意見、助言等をいただきながら文化的景観整備活用計画を基に事業の推進に努めていく。						

担当課評価	B	○ほぼ計画的どおり進めることができたが、細部で基準を設ける必要があり、今後調整が必要である。
委員評価	B	○2次評価のとおり

評価基準	A	KPI達成に非常に有効であり、このまま継続して事業を推進する。
	B	KPI達成に有効であり、継続して事業を推進する。
	C	KPI達成のために、要因の分析を要する。
	D	KPI達成のために、要因の分析と事業の見直しを要する。
	E	事業自体の抜本的見直しを要する。